# 4 社会資源について

## 1 府中市の社会資源

ヤングケアラー本人や家族が抱える課題や、置かれた状況は複雑かつ多様であり、求められる支援もさまざまです。そのため、必ずしも一つの機関で対応し解決を図るものではありません。

ヤングケアラー及びその家族が利用する介護保険や障害福祉等の公的支援制度とともに、子ども食堂や学習支援教室、ピアサポート、ボランティアによる見守りなど、インフォーマルサービスを組み合わせて、いかにして地域全体で支援できるかという視点が必要です。地域のさまざまな支援は、制度の狭間への対応や見守り、寄り添いなどきめこまやかな支援が期待できます。

### 府中市内における主な支援機関

府中市にあるさまざまな社会資源とその役割について、分野ごとに紹介します。

#### 子ども・家庭

| | |
|---|---|
| **子育て世代包括支援センター「みらい」** | 子育てや家庭に関するさまざまな相談に応じ、支援を行う。母子手帳の交付、乳幼児の各種健診を行う。児童虐待に関する通告・相談を受付ける。 |
| **子ども家庭支援センター「たっち」** | 18歳未満の子どものいる家庭の子育て相談や子ども自身からの相談など、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じるほか、子育て支援サービスに関する情報提供などを行う。育児の手助けをしてほしい方としたい方が支え合うファミリー・サポート・センター事業を行う。 |
| **児童相談所** | 原則18歳未満の子どもに関する相談や通告を受付け、必要に応じて一時保護や施設入所等の措置を行う。里親制度の推進や愛の手帳の手続等も行う。 |
| **一般社団法人ケアラーワークス** | ヤングケアラー・若者ケアラーを中心に、相談支援、普及啓発、ピアサポート活動、研究調査等を行う。 |
| **保育所・保育園** | 保護者の就労や傷病などのため、乳児や幼児を預かり、保育を行うことを目的とする。市内には、市立保育所が11ヶ所、私立保育園が48ヶ所ある。 |
| **児童館（文化センター）** | 地域において、サークル活動や運動、工作等、児童に健全な遊びの機会を提供し、健康増進、豊かな心を育むことを目的とする。 |
| **学童クラブ** | 保護者が就労などのため、日中家庭にいない小学生を放課後に預かり、集団生活を通して、児童の健全な成長と家庭を支援する。 |

| | |
|---|---|
| **けやきッズ（放課後子ども教室）** | 市内在住の小学生が、放課後や学校の長期休業期間中に、安全に過ごすことのできる自主的な遊びの場を提供。市立小学校全校で実施している。 |
| **子ども食堂** | 子どもが一人でも利用できる、無料または低額の食堂。地域住民の自主的・自発的な取り組みによって運営されており、食堂ごとに特色がある。子どもたちに栄養バランスのとれた食事や、多様な人たちと交流できる場を提供している。 |
| **Posse** | 中学・高校生が、勉強や読書、大学生スタッフとのおしゃべりなどをしながら自由に過ごせる、家でも学校でもない第３の「学びの場」を作っている。 |
| **子どもの学習の場** | 小・中学生を対象に、無料または低額で市内の会場にて学習支援（学習室）を実施する。市内には「府中てらこや連絡会」などがある。（36・37 ページ「府中市内社会資源マップ」を参照） |

## コラム

### ［ 子どもの心のゆらぎを受け止める環境の大切さ ］

こどもの居場所作り@府中 代表
令和５・６年度 府中市ヤングケアラーネットワーク会議委員　南澤 かおりさん

2016 年度から毎月開いてきたこどもの居場所作り@府中の子ども食堂は、2020 年コロナウイルス感染拡大で中止を余儀なくされましたが、給食がなくなり困っている声を受けフードパントリーを企画、主にひとり親家庭を対象に食材を配布してきました。2020 年度７月からは会食形式の子ども食堂を再開、現在は２ヶ月に１回のフードパントリーを継続しています。また週に１回パンを安く購入し、配布する活動も行っています。

子ども食堂はボランティアが手作りの食事を提供し人々が交流する場でもあり、企業や市民からの寄付もある、地域全体が関わる場となっています。長く通う子どもたちは親が来なくても参加するようになり、子どもたちが心の揺らぎを出す時も、ボランティア複数名の視点から受け止められる環境があります。

親の側をみると、自身の困りごとを整理して伝えられる人は少ないですが、食事を通じて話をし、それを受け止められることで元気になる人もいます。相談しない人は困っていないわけではありません。まず自分の中に湧いてきた言葉を話し、受け止められ、フィードバックされる過程が大事です。

子ども食堂に来る人たちは場に参加することで人間関係が築かれ、語りが増えていくように感じます。「つらすぎて明日のことなんて考えられない」と言っていた人も、長く通うことで言葉を出せるようになりました。

孤独や不安の後ろにはさまざまな、重なり合った課題があるため、複数の人たちによる視点、そして支援が必要です。また、子ども食堂につないでくれる人との関係性が大切だと感じています。市から紹介されて来た家庭もあり、家庭丸ごとを複数の点がつながり支えていくようなネットワークが大切だと感じています。

子どもたち、子ども食堂スタッフ、モランボンさんと一緒に餃子作り

## コラム

### [ 中高生が安心してありのままの自分でいられるように ]

一般社団法人 Youth Action for Fuchu Co-study space "Posse" 事業代表
令和6年度 府中市ヤングケアラーネットワーク会議委員　大谷 恭平さん

Co-study space "Posse"（以下 Posse）※は中高生のための「家でも学校でもない第３の居場所」です（2020 年設立）。友達同士で遊ぶ、１人でゆっくり過ごす、スタッフとおしゃべりするなど、自由に過ごすことができます（週２日開館し、中高生は１日 100 円で過ごすことができます）。ゲーム大会などイベントも開催しています。

Posse が大切にしている価値観は、“居場所”、“関係性”、“学び” です。中高生が安心してありのままの自分でいられ、ふらっと来て自分のモヤモヤを話していけるような場所であること、スタッフの学生や地域の大人等とのナナメの関係性を築くことにより、中高生にとってのロールモデルを提供することを目指しています。また、中高生がさまざまな情報や価値観に触れ、自らの選択肢や可能性を広げていくことにも目指して取り組んでいます。

時には学校生活や人間関係等の悩みについて話す子もいます。中高生がスタッフたちと話し合い、対処方法を一緒に考えることもあります。このように、中高生との関係を築いた上で子どもが気軽に話せるような場としても Posse は機能しています。

ただ、中高生には保護者の許可が必要なことも多く、子どもの行動には制約があります。また Posse のスタッフは学生であり、できることには限りがあります。そのため、悩みや課題を抱える子どもについて連携し、対応が難しい場合にもどうしたらよいか具体的に相談できる先が必要と考えています。

日頃のPosseの様子

※）令和７年度より「Co-manabi space “Posse”」に施設名を変更

## 教　育

| | |
|---|---|
| **府中市教育委員会** | 公立学校その他の教育機関、教職員、児童・生徒、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務等を担当する。 |
| **学校** | 学校教育法に定められている教育機関。市立小学校が22校、市立中学校が11校ある。 |
| **特別支援学級** | 知的障害のある児童・生徒に対し、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行う。公立小学校6校、公立中学校3校に設置されている。 |
| **学びの多様化学校「かがやき」** | 不登校生徒の状況に応じた特別なカリキュラムを編成し、多様で適切な教育機会を確保する。 |
| **幼稚園** | 学校教育法に定められている教育機関。園それぞれの教育方針にもとづき運営している。 |
| **スクールソーシャルワーカー** | 社会福祉に関する専門性を活かし、児童・生徒の日常生活の悩み、不登校などに対し、家庭や学校、関係機関等と調整・連携しながら環境への働きかけ等を行う。 |
| **スクールカウンセラー** | 臨床心理に関する専門性を活かし、学校で児童・生徒や保護者、教職員の相談に応じる。 |

## 生活困窮

| | |
|---|---|
| 府中市生活福祉課 | 生活保護受給の相談・申請、要保護世帯への給付を行う。生活困窮者の経済的自立を目指す。暮らしや仕事の困りごとに関する相談を受け、必要な支援を行う。経済的支援、就労支援、子どもへの学習支援等を行っている。 |

## 医療・保健

| | |
|---|---|
| 多摩府中保健所 | 地域住民の健康保持増進のため、また、地域における健康危機管理の拠点として、危機発生時の情報収集・提供、感染症予防・精神保健などの保健対策、食品衛生・環境衛生・医事・薬事の監視業務等多岐に渡る業務を行う。 |
| 病院・診療所 | 医療の提供（入院・往診含む）、訪問看護等を行う。 |
| 訪問看護ステーション | 看護師等が病気や障害をもつ方の生活を支えるために自宅を訪問し、健康状態の悪化防止や回復に向けて、療養生活上の相談とアドバイス、医療処置、服薬管理等を行う。 |
| 訪問リハビリステーション | 理学療法士や作業療法士等が自宅を訪問し、心身の機能維持・回復、日常生活の自立と社会参加を目的としてリハビリテーションを行う。 |

## 障害児・者

| | |
|---|---|
| 府中市障害者福祉課 | 障害のある方に関する福祉の総合窓口。障害福祉サービスの調整、障害者手帳の交付、補装具・手当の給付、医療助成などを行う。 |
| 特定相談支援事業所（障害児相談支援事業所） | 障害福祉サービスの利用や生活上の相談に応じ、情報提供や助言等を行ったり、サービス等利用計画を作成したりする。 |
| 障害福祉サービス提供事業所 | 障害のある方が地域で安心して暮らせるように、入浴や食事等の日常生活上の介護、就労支援、児童への発達支援など、障害特性に合わせたサービスの提供を行う。 |
| 子ども発達支援センター「はばたき」 | 子どもやその家族等からの相談を広く受付けるほか、発達相談や教育相談等、相談内容に応じて各種相談や必要な支援につなげる。 |
| 放課後等デイサービス | 18歳未満の就学する障害児を対象とし、放課後または休日に、生活能力向上の訓練や社会との交流の促進等を行う。 |

## 外国ルーツ（多文化共生）

| | |
|---|---|
| 府中市多文化共生センターDIVE | 府中市に暮らす外国人と日本人の多文化共生をすすめる拠点として、外国人住民の困りごとや相談に対応し、外国につながる子どもの学習支援、交流の場の開催、情報発信等を行う。 |

## コラム

### ［ 外国につながる子どもとのかかわり ］

府中市多文化共生センター DIVE 職員
令和６年度 府中市ヤングケアラーネットワーク会議委員　宮武　茜さん

「Unknown」。数週間前まで連絡を取ることができていたLINEの名が消えました。やり取りをさかのぼると、子育て給付金、奨学金の申し込み、教材費の振り込み方、保険証再発行の仕方、税金の書類の質問……難しい内容ですが、ひらがなが多いやり取りが続いています。数年前に来日した中学３年の女の子は、仕事で忙しく日本語があまり上手ではない両親に代わって、DIVEのサポートを受けながらさまざまな手続きをしていました。

彼女との出会いは、子育て世代包括支援センターからの「日本語指導が必要な子どもがいます」という連絡がきっかけです。DIVEでは、市内の外国につながる子供たちが日本語学習支援を受けられるよう、支援団体と連携しています。

「国語と社会の授業は一度も受けたことがない。わからないから。その時間は日本語を勉強してる。漢字が難しい。高校はどこに行くの？　何もわからない。」

ごく一部の都立高校では、英語で小論文と面接を行うなどの「在京外国人生徒対象入試枠」を設けていますが、彼女は入国後３年が経ち対象外でした。

「数学は文章問題も計算も難しい。問題集ありますか?」「私は高校に行けますか?」「お金足りるかなぁ。」不安な声が漏れます。

日本人であっても受験システムはわかりづらく、進路選択は不安になるものです。二次試験、定時制、夜間中学など、次の選択肢を準備する中、合格を知った時は、関係者で胸をなでおろしました。

しかし夏ごろ、「今月彼女は３回しか登校していません。」と高校から連絡がありました。両親に家事を優先するように言われ、登校できなくなっていたのです。ストレスが身体にも表れているといいます。

もうつながらないLINE。他のSNSにメッセージを残しますが既読になりません。彼女が大切にしている家族、両親に、どのように働きかけるのが良いのか、考えています。

放課後学習支援にて日本語を学習する子どもたち

## 高齢者

| | |
|---|---|
| **府中市介護保険課** | 介護保険制度に関する窓口。介護サービスや要介護認定、在宅介護支援に関する業務を行う。 |
| **府中市高齢者支援課** | 高齢者の生きがい、介護予防事業の実施、認知症サポーターの養成、高齢者の地域支援ネットワーク構築等を行う。 |
| **地域包括支援センター** | 地域で暮らす高齢者を介護・福祉・健康・医療など、さまざまな面から総合的に支援する。 |
| **居宅介護支援事業所** | 高齢者の心身の状態や置かれた環境等に応じて、ケアマネジャーが介護サービス利用のための居宅サービス計画を作成し、サービス提供事業者等との連絡調整を行う。 |
| **介護保険サービス提供事業所** | 介護が必要な方が地域で安心して暮らせるよう、自宅や通所施設等で、入浴や食事の介護、リハビリテーション等、心身の状態や家庭の環境に応じたサービスの提供を行う。 |

## 地域

| | |
|---|---|
| **民生委員・児童委員・主任児童委員** | 住民の立場に立って、地域の中でさまざまな状況におかれた方々の相談に応じ、必要な福祉サービスが利用できるよう行政等とのパイプ役として活動する。主任児童委員は児童問題を専門に担当する。 |
| **府中市社会福祉協議会** | 住民が抱えるさまざまな生活上の課題を地域全体の問題としてとらえ、地域住民や行政・福祉等の関係機関、専門家等が連携して解決を図り、誰もが安心して生活できる「福祉のまちづくり」をすすめている。「困りごと相談会」や「ふれあいいきいきサロン」や「わがまち支え合い協議会」等、さまざまな事業や取り組みを行う。 |
| **NPO法人 フードバンク府中** | 市民や企業、団体等から寄付された食品を支援団体等に寄付する。学生向けのフードパントリー（無料食料支援）も行っている。 |

### 地域福祉コーディネーターとは

地域福祉コーディネーターは、府中市社会福祉協議会に所属する「身近な福祉の相談窓口」です。一人ひとりに寄り添った生活支援（個別支援）と、住民主体の地域課題解決に向けたしくみづくり（地域支援）を行い、地域で支え合うまちづくりの発展や、より多様な主体が地域づくりに関わることを目指し活動しています。

**①個別支援**

制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的に、分野や年代を問わず、世帯丸ごと相談を受けています。本人との関係を作りながら、地域住民や関係機関と連携し、困りごとの解決に取り組みます。また、早期解決が難しい複雑化した課題に対しては、孤独・孤立を防ぐための伴走型支援も行っています。

**②地域支援**

地域住民が一人ひとりの困りごとを地域全体の課題として捉え、連帯意識を持って活動を作り出すための支援を行っています。具体的には、地域資源や地域住民を知りニーズを把握すること、地域活動をしたい人とニーズのマッチング、地域活動の立ち上げ・運営の支援等が挙げられます。

### 困りごと相談会とは

困りごと相談会は、身近な地域で「どこに相談したらいいかわからない」「誰かに聞いてほしい」といった、暮らしの困りごとなどを相談できる場所です。地域福祉コーディネーターが暮らしの困りごとの相談をお聞きし、お話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。会場は、市内の各文化センターです。

◀参考：府中市ホームページ「地域福祉コーディネーター」
https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kenko/fukushi/suishin/tiikifukusiCO.html

# 府中市内 社会資源マップ

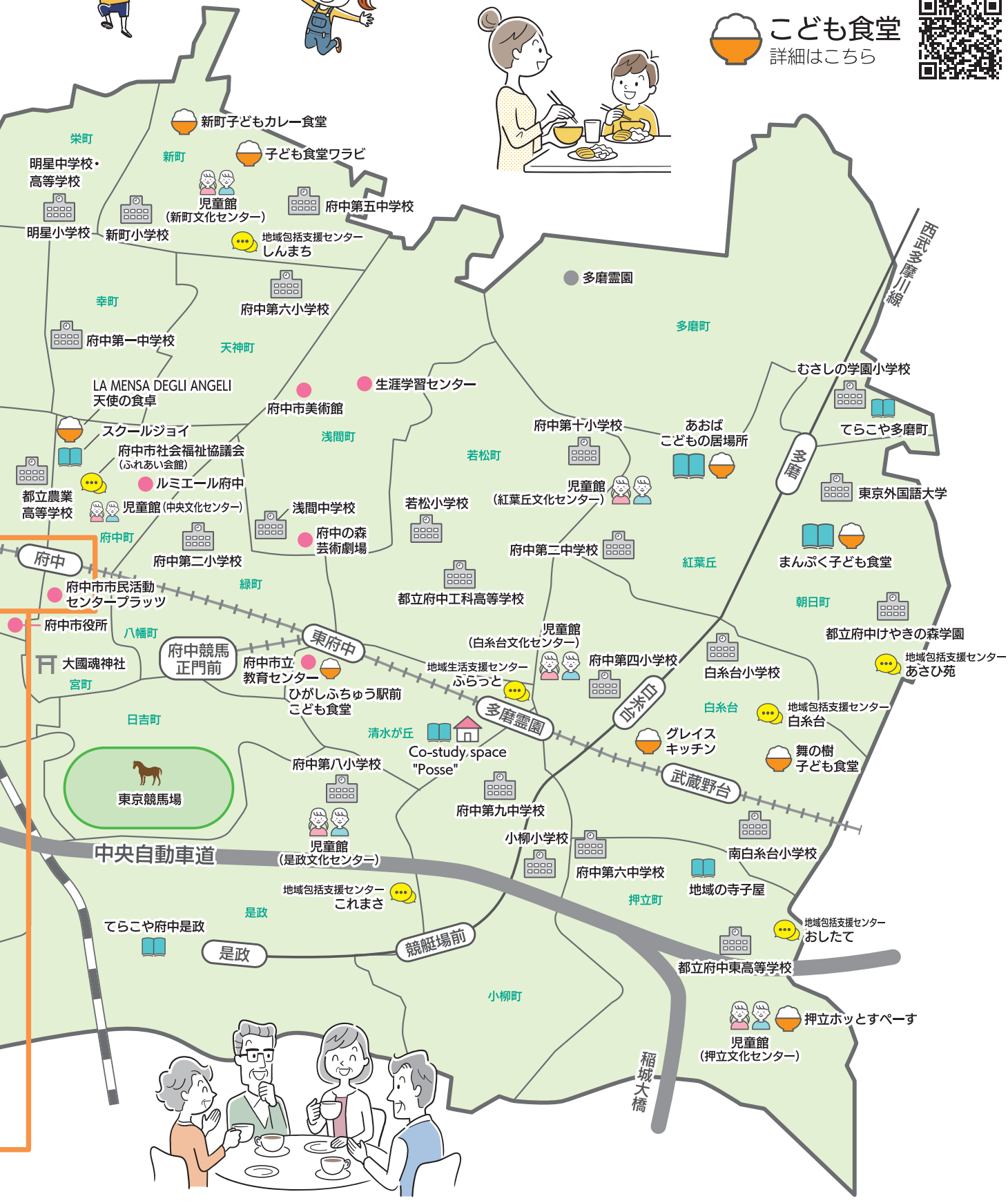
学習支援
詳細はこちら

## マークの説明

- こども食堂
- 学習支援
- 居場所
- 相談場所
- 学校（小・中・高・大学）
- 文化センター（児童館）
- 公共施設など

2025年3月現在

府中市駅前エリアを拡大

# 子ども・若者が相談や利用できる場所、また、ケアを必要としている方の相談に乗ってくれる場所などを掲載しました。今後も市内に頼れる人や場所を増やしていきましょう。

こども食堂
詳細はこちら